平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立切目中学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成28年4月19日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 中学校第3学年 13名

教科に関する調査 国語、数学

主として知識に関する問題(A)

主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

生徒質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等

学校質問紙調査 ----- 学校の教育活動全般についての取組や学校の
人的・物的整備の状況

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

- A（知識）、B（活用）ともどの領域も全国を上回っている。特にA（知識）の中で読むことは9割以上の正答率で、一定の力がついているといえる。
○B（活用）は全国平均を上回っているものの、A（知識）ほどではなく、自ら課題を決め、それに応じた答えを考えるなど活用力に多少課題が見られる。

（1）国語A（知識）

- ◇パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考にして書くことは、すべての生徒ができています。[A²— 100.0%]
◇電話を受けた相手のことを考えた言葉を書くことは、すべての生徒ができています。[A⁵— 100.0%]
◇奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択することは、すべての生徒ができています。[A⁸— 100.0%]
◆漢字（今までにないドクソウ的な考えだ）を書くことに課題がある。[A⁹— 215.4%]
◆文章を書き直した意図として適切なものを選択することに課題がある。[A⁹五38.5%]

（2）国語B（活用）

- ◇文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えることは、多くの生徒ができています。[B¹— 84.6%]
◇文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことは、多くの生徒ができています。[B¹三76.9%]
◇本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことは、多くの生徒ができています。[B³三76.9%]
◆課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題がある。[B²三30.8%]
◆目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題がある。[B³二53.8%]

学習指導要領の領域等	平均正答率（％）	
	国語（A）	国語（B）
話すこと・聞くこと	87.2	—
書くこと	84.6	61.5
読むこと	92.3	67.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.1	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る（青字）・下回る（赤字）

数 学

○A（知識）、B（活用）ともどの領域も全国を5ポイント以上上回っている。
一定の力がついているといえる。

○B（活用）の中で、全国平均を上回っているものの、全国的な傾向と同様に図形に関する問題や説明や証明することに課題が見られる。

（1）数学A（知識）

- ◇正の数と負の数の加法の計算をすることは、全ての生徒ができる。[A¹]（3）100.0%]
- ◇整式の加法と減法の計算をすることは、全ての生徒ができる。[A²]（2）100.0%]
- ◇2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことは、全ての生徒ができる。[A³]（4）100.0%]
- ◆与えられた方法で作図された直線が垂線であると選択することに課題がある。[A⁴]（1）23.1%]
- ◆比例の式について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることに課題がある。[A⁹]（2）30.8%]
- ◆反比例のグラフから式を求めることに課題がある。[A⁹]（4）30.8%]

（2）数学B（活用）

- ◇1試合の時間を16分とするとき、1回の休憩の時間を求めることは、多くの生徒ができる。[B¹]（1）84.6%]
- ◇一次関数の表から $x=4$ のときの y の値を求めることは、多くの生徒ができる。[B²]（1）84.6%]
- ◇最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書くことは、多くの生徒ができる。[B⁶]（1）84.6%]
- ◆ $x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明することに課題がある。[B²]（2）23.1%]
- ◆車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選択することに課題がある。[B³]（2）23.1%]
- ◆2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明することに課題がある。[B⁴]（1）23.1%]

平均正答率（%）

学習指導要領の領域等	数学（A）	数学（B）
数と式	76.9	60.3
図形	73.1	38.5
関数	61.5	47.7
資料の活用	67.3	50.0

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る（青字）・下回る（赤字）

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う生徒の割合は、国語・数学ともに全国や県よりも大きい。

	国語	数学
学校	69.3	76.9
県	52.3	53.9
全国	59.8	56.0

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う生徒の割合は、国語・数学ともに全国や県を大きく上回っている。

	国語	数学
学校	100.0	92.4
県	72.7	69.8
全国	74.1	69.4

(3) 授業時間以外に全く勉強しない生徒の割合は、平日・休日とも全国・県より少なく、特に平日に勉強しない生徒はいない。また、1時間以上勉強をしている割合も、平日・休日ともに全国・県を上回っている。ただし、2時間以上勉強している割合は平日で本校30.8、県34.1、国34.2、休日で本校23.1、県29.8、国40.1であることから、学習時間の短い生徒が多い。

	平日	休日
学校	0.0	7.7
県	6.7	18.1
全国	5.5	11.0

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」生徒の割合は、全国・県より大きい。

学校	69.2
県	47.4
全国	56.7

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した生徒の割合は全国・県を下回っており、家庭内でのコミュニケーションが十分でない生徒がいる。

学校	30.8
県	43.3
全国	44.2

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた生徒の割合は、国や県をやや上回っている。

学校	46.2
県	39.3
全国	45.2

(7) 普段1日当たり1時間以上インターネット等(ゲームを除く)に携帯電話やスマートフォンを使用している生徒の割合は全国・県を大きく下回っており、啓発の成果が現れている。

学校	7.7
県	53.8
全国	47.8

(8) 「本を読んだり借りたりするために学校の図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」について「週1回以上」と答えた生徒の割合は全国・県を大きく上回っており、読書活動の推進が功を奏している。

学校	46.2
県	5.2
全国	7.6

(9) 自分で計画を立てて家庭学習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は全国・県を大きく下回っており、学習はしているが、計画的かつ自主的にできていない生徒が多い。

学校	23.1
県	43.5
全国	48.4

(10) 新聞を「ほぼ毎日」「週1～3回程度」読んでいると答えた生徒の割合は全国・県を下回っている。

学校	7.7
県	18.2
全国	18.3

4 調査結果を踏まえた改善方策

(1) 学力に関して

①国語

知識面を中心に基礎的な力は向上している。しかし、自ら課題を決め、それに応じた答えを考えるなど活用力に課題が見られる。そこで、次のことを行っていきたい。

- ・昨年度に引き続き、初見の文章の内容を要約する訓練として、コラム読解の取組を継続し、内容を理解する訓練を繰り返していく。
- ・国語以外でも行っているが、さまざまな資料から情報を読み取り、活用する学習の機会を意図的にさらに増やしていく。

※文章力を高めることは短期間ではなかなか成果が出ないことから、継続して粘り強く取り組むことの大切さを指導していきたい。

②数学

どの領域も基礎基本は概ね身につけている。しかし、それに比べ、活用の方は少しずつ力はついてきているが、全国的な傾向と同様、基礎基本ほどできておらず、単に解を求めるだけでなく、それに至る過程を説明したり、表現したりすることに課題が見られる。また、題意を正確に読み取れないため、情報の処理や考察等にも課題が見られた。そこで、次のことを行っていきたい。

- ・日常生活と関連付けた教材を工夫し、具体的事例で理解を図る。
- ・表現する力を身に付けるため、グループ学習の時間をとり、少人数で自分の考えを伝えることができるようにする。
- ・文章問題の要旨を図式化する等の指導にさらに多く取り組んでいく。
- ・思考の過程を大切にする授業展開を行っていく。

☆どの教科においても表現力や条件に従い解答するなど筋道立てて考える点が課題となっている。教科の時間だけでなく、学校生活全般において課題を意識した取組を行い、指導していきたい。

(2) 生活全般について

①特長

質問紙調査の結果にあるように、平日1日当たり1時間以上インターネット等（ゲームを除く）に携帯電話やスマートフォンを使用している生徒の割合は全国・県を大きく下回っている。また、平日にテレビやビデオ・DVDを2時間以上見ると回答した生徒は30.8%で、全国48.7%、県51.5%、平日にゲームを2時間以上すると回答した生徒も15.4%で、全国34.9%、県41.3%、いずれも全国・県を下回っている。

「図書室の利用」で週1回以上と答えた生徒は全国・県を大きく上回っている。「読書」についても強く「好き」と肯定している回答が53.8%で、全国46.5%、県40.0%を上回っており、本を読む習慣が定着しているといえる。

今後も家庭、地域と連携し、本校生徒の長所を伸ばしていきたい。

②課題と見られる点

テレビなどのニュースは見ているので、時事的な事柄は知っているが、新聞を読む習慣が身につけていない。しかし、本は読むので、活字に抵抗はそれほどないと思われる。今後は、様々な文章にふれるためにも新聞記事を紹介し、興味を持たせるなど、新聞を読む機会をつくり、習慣づけていきたい。

また、家庭学習はしているが、2時間以上している割合が、平日は大きく変わらないが、休日は全国に比べ17%も低くなっている。計画的に家庭学習を行えていないという回答も多かった。これらのことについては、今までも機会を捉え、「家庭学習の手引き書」などを用い、家庭学習の重要性を伝えてきた。ノーテレビ、ノーゲームディ等の学習強調週間の取組を行うなど、家庭と連携し、子ども達の学習への意識向上に向けた取組も行ってきた。そのため、少しずつではあるが、テスト発表時の家庭学習は良くなってきた。調査月が4月なので、現時点においては3年生としての自覚もでき、調査当時より改善されていると考えるが、今後も引き続き、継続的な取組を行っていきたい。

※一部を取り出しての2次利用、また再配布を禁ず。 印南町教育委員会